

交通事故ゼロの社会目指す

—— ハンドルの重みは命の重み ——

交通遺児育英会

会長 石橋健一氏

BMXプロライダー

大池水杜選手

—— 交通遺児の成長を支える ——

公益財団法人交通遺児育英会（東京）は1969年の設立以来、保護者が道路上の交通事故により亡くなったり、重度の後遺障害を負ったりしたため経済的に困窮する子どもたち（交通遺児）に、奨学金の貸与・給付などの支援を続けています。また、交通事故や飲酒運転ゼロを目指し、啓発活動にも力を入れています。近年、自転車による事故が絶えず、2023年の改正道路交通法施行で、自転車利用者のヘルメット着用が努力義務化。昨年11月には自転車走行中の携帯電話利用（ながら運転）や酒気帯び運転に罰則が新設されました。自転車BMXのプロライダーとして世界を舞台に活躍する大池水杜選手（岡山市在住）と同会の石橋健一会長が、自転車マナー向上や、夢を追いかけることの大切さについて語り合いました。（文中敬称略）



いしばし・けんいち 1942年生まれ。北海道大学工学部卒業後、日新製鋼入社。呉製鉄所エネルギー技術課、本社人事部などを経て、96年交通遺児育英会会出向。事務局長、専務理事、理事長を歴任し2023年から現職。



おおいけ・みなと 1996年生まれ。静岡県島田市出身。2011年からBMXを始める。18年フランスW杯で日本人初優勝、21年東京開催の国際スポーツ大会7位入賞など、日本女子のバイオニアとして活動が続ける。

苦難乗り越え夢つかんで

保護者の声で設立
返還不要奨学金も

交通遺児育英会設立の経緯を教えてください。

石橋 1960年代、高度経済成長に伴い自動車の所有台数が増え、同時に交通事故の被害者が急増していました。全国で1万6千人を超える死者が出る年もあり、遺族である母親たちから「せめて子どもを高校には進学させたい」と支援組織を求める声が増えていきました。その願いが政府に届き、69年5月に当会は設立されました。

具体的な取り組みは。

石橋 奨学金貸与が最大の事業で、これまでに5万8千人を超える交通遺児の皆さんに、584億円の支援を行ってきました。2020年度からは、専門学校生・大学生以上の奨学生に対し奨学金のうち一部（月2万円）を返還不要の給付型とし、23年度からは高校生も月1万円を給付型としています。また、本年度から従来の英語検定試験に加え、その他外国語検定や就職、進学に役立つ資格試験の範囲を大幅に拡大、受験料全額を給付しています。15以降、自宅外通学者の家賃補助や、自動車運転免許取得費用補助、進学受験費用補助を実施しておりますが、さらにこのような給付型支援（返還負担の軽減策）を順次拡大していく方針です。

寮や海外語学研修
多様な支援が充実

大池選手がBMX競技を始めたきっかけは。

大池 幼少期、父の影響でモトクロスに挑戦して以来、二輪スポーツにずっと関心がありました。そして中学生の時、おもしろいスケートパークで、自転車に乗っている光景を目の当たりにしたんです。衝撃を受けたと同時に、同じくうちの男の子たちがやっているのを見て「私の方がうまく乗れる」と負けず嫌いな魂に火が付きまして。その日から、私のBMX人生がスタートしました。

石橋 スポーツは、どの競技でもトップになるのは難しいこと。とりわけ大池さんは世界のトップですから、私たちに想像もできない挑戦や苦しいこと、またサポートもあってこそまで到達されたと思います。

大池 私がBMXを始めた当初は、日本で競技として取り組んでいる女性は一人もいませんでした。大会で男性と競っても勝負目がなく、悔しい思いをし続けました。また、高校卒業後は関東が拠点だったので、18年にBMXフリースタイル・パークの日本代表監督がいる岡山市へ移りました。ちょうどBMXが21年に東京で開催された国際スポーツ大会の正式種目に選ばれたこともあってお声をいただいたとき、岡山市

来られるような環境を整えてもらったのでありがたかったです。

交通遺児育英会は、奨学金以外の支援も充実しています。

石橋 地方出身の奨学生向け学生寮「心塾」を東京に開設しています。昨年2月に建て替えが完了し、新しいきれいな寮に生まれ変わりました。京都、神戸など関西の25カ所では民間の寮を借り上げて当会寮として運営しています。また、海外語学研修では、毎年約30人の高校奨学生が米国カリフォルニア州でホームステイ。語学力を鍛えるだけでなく、海外生活で自立する姿勢も芽生えています。

大池 私が初めて海外へ行ったのも高校生の頃、BMXの大会に参加するため、エストニアへ遠征しました。当時は英語が全く話せず、現地には日本人の先輩に食事の注文から助けてもらい、帰国後に英語を猛勉強したのも良い思い出です。実は私の周りのような交通事故で親を亡くした人がいて、大変そうな姿を見てきました。育英会のように海外研修などさまざまな支援をしてくれ、チャンスをつまめる環境があるのは素晴らしいですね。

石橋 当会の奨学生OBにも、大池さんのようにスポーツ界で活躍している方々がいます。あるプロ野球選手は、交通遺児を野球観戦に招待したり、当会の広報紙に登場したりと、今は私たちの活動を支えてくれています。人生とは、夢や目標を持って走り続けるもの。そこに一歩で

も近づけるよう、当会の支援を使う社会に羽ばたいてくれるとうれしいです。

ヘルメット着用や
危険の予測が重要

23年の改正道交法施行で、自転車のヘルメット着用が努力義務化。昨年11月には自転車運転中の携帯電話利用や酒気帯び運転の罰則が新設されました。マナー向上のポイント。

石橋 儒教の教えである「仁」のことを思いやることを大切に、人を思いやつて運転することです。交通遺児の保護者の方が、講演で話してくれた「ハンドルの重みは命の重み」という言葉があります。まさにその言葉、思い出し、心に優しさを添えてハンドルを握ってください。

大池 BMXでは風を切るように、常に「予測」しながら技を決めています。街を走るときも、「もしかしらうこんな危険があるかも」と考えて運転するのが重要ですね。また、私自身、何度も助けられました。今はおしゃやな自転車用ヘルメットも販売されているので、ファッション感覚で気軽に着用できます。

石橋 死角から何か飛び出してくる可能性がある意識しながら運転するのは大事ですね。飲酒運転は、ごくわずかな量でもそういった「気づく能力」や反射神経などに多大な悪影響を及ぼします。

大池 飲酒していないときでさえ、事故は起きるもの。「自分なら大丈夫」という自信を捨て、「だめなものだめ」と自覚を持つてほしいです。

交通事故ゼロに向けた思いを。

石橋 当会が日本全国で実施している無料出張講演などで保護者の方や子どもたちの交通事故被害の経験を開いていただくと、皆さん改めて「事故は悲惨なものだ」と実感してくれそうです。ですが、日頃はあまりそんなことを想像せずに運転してしまっています。当会は今後も事業を通じ、交通事故が生む悲しみを運転時に思い出し、もう二度と、交通安全意識の向上を訴えていきます。

大池 事故は大なり小なり、周囲の人が驚き、悲しむものです。親に心配をかけた、怒られたりしたことがあります。みんなが健康で安心して暮らせる街になるため、一人一人が気をつけたいですね。

チャレンジ後押し
制度の改善続ける

最後に、夢を追いかける子どもたちにメッセージをお願いします。

石橋 皆さんそれぞれ個性があり、夢や目標も違います。その達成に向けてチャレンジを続けられるよう、当会も後押ししていきます。また、東京で年1度開催する「高校奨学生と保護者のつどい」や、全国各地で保護者同士の交流を目的に開く「語らいカフェ」などには私たち職員も参加。その中で事業への意見もいただき、実際に改善につなげているので、これからも皆さんの声を聞きながら、より皆さんの支えになる制度を整えていきます。

大池 まずは、自分がやりたいことを口に出してみてほしい。そうすれば絶対に誰かが応援してくれたら、アドバイスもくれたら助けられます。私も「BMXで世界一になりたい」と言った瞬間、ものすごく皆さんの人が応援し、支えてくれました。そして、夢は苦しいことを乗り越えれば近づいて来ます。人生に苦難はあっても当たり前。それすらも時に楽しんで、諦めずに突き進んでほしいです。

事故で悲しむ人減らしたい

岡山商科大学1年
長谷川 慶さん

父が事故に遭ったのは、私が生まれる10年以上前、地元広島で、オートバイに乗って帰宅途中、脇道から進入してきた軽自動車と衝突したそうです。右腕は切断。左腕はまひで動かない障害が残りました。私と兄は双子で、同時に岡山市内の私立大学への進学を希望したため、一部給付型奨学金制度のある交通遺児育英会の支援を受けることになりました。

奨学金利用者の声

今年4月、警察官を目指して、岡山商科大学法学部に進学。小学校3年から続ける剣道では周囲に現役警察官が多く、いつしか自分の憧れになり

ました。交通事故が起きるのは仕方ない側面もありますが、自動車や自転車に乗る全員が「気を付ける」ことが第一。将来は仕事を通じ、事故で亡くなった人への悲しみを減らしたい思いがあります。

勉強に剣道部、アルバイトと忙しくも楽しい毎日を送っています。同会の家賃補助を活用し、大学寮で1人暮らしを始めがたみを改めて実感しました。大学進学までたくさんお金がかかったのに、嫌な顔一つせず支えてくれた家族のため、今度は自分が恩返しできるよう頑張ります。

〈各団体の支援事業・育英事業〉

公益財団法人 交通遺児育英会

一般財団法人 岡山県交通安全協会

企画・制作／山陽新聞社メディアビジネス本部

岡山県 年末年始の交通事故防止県民運動(2025年12月1日①～2026年1月7日②)

交通事故ゼロ、飲酒運転ゼロを目指して、無料出張講演を行っています。

交通遺児や保護者の方の体験を視聴いただくことは、交通安全の大切さを実感する絶好の機会となります。ぜひ、お問合せください。

交通遺児育英会は、50年以上にわたり、保護者が交通事故で亡くなったり、重度の後遺障がいのため、経済的に修学が困難になった子どもたちに、高校や大学・専門学校などへの進学を支援し続けています。修学を終えたら、社会に役立つ人材として羽ばたいていきます。私たちの活動は大きく5つの事業で成り立っています。

- 1 奨学金の無利子貸与（一部給付）
- 2 奨学生の指導および育成と交流
- 3 学生寮「心塾®（こころじゅく）」の運営
- 4 修学支援金の給付
- 5 交通安全推進運動への協賛・協力、無料出張講演等



私は、進学の夢をあきらめない。

公益財団法人 交通遺児育英会

募金課 ☎ 0120-521285（平日9:00～17:30）

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-6-1 平河町ビル3階

交通遺児育英会 検索

bokinka@kotsuiji.com

